

よねさとづくり通信

No.175

よねさとづくり協議会
令和6年9月1日発行

立秋を迎えましたが、厳しい暑さがもうしばらく続くようです。暑さの中、新しい取り組みがいくつか行われましたので、紹介します。

軽トラ市（米里マルシェ）

住宅地の雲山エリアと田畑の多い旧米里エリアの交流を図り、地域の一体感をと計画した軽トラ市を「米里マルシェ」と銘打ち、8月4日（日）午前9時半から開催しました。4名の生産者のご協力により、スイカ、枝豆、トマトなど新鮮な野菜や梨（幸水）などが並んでいました。約60名の方が買いに来られ、開始時刻前から人だかりができていました。人気の品は飛ぶように売れて、開始30分で終了となりました。

この取り組みをきっかけにして顔の見えるつながりや経済生活圏ができるといいですね。

なお、次回は11月に計画しています。これから収穫の秋を迎えます。農産物を生産されている皆さん、次回のお店にご協力いただけませんか？

関心のある方は、ぜひ事務局（公民館）までご連絡ください。



出店者募集中！



出店者の声

- ・次回は余らすくらい持って行きたいです。
- ・開催について事前のPRを広く行ってほしい。



来場者の声

- ・良い商品で安価
- ・安い、新鮮
- ・もっとたくさんの野菜があったらうれしいです
- ・次回も続けてください
- ・ちょこちょこ開催してください



「米里チャンネル」はこちら
納涼祭や米里マルシェの様子
がご覧になれます



これまでのよねさとづく
り通信がご覧になれ
ます

町内会だより ～東大路～



東大路そらまめ踊り



「一寸そら豆の里 ～ 東大路『そらまめ音頭』」

東大路の入口に「『一寸そら豆の里』東大路」という案内板があります。「米里誌」によると、昭和58年に東大路「米里そら豆生産組合」が創設され、創立5周年記念祭で「そらまめ音頭」が発表されました。

東大路はそら豆栽培に土壌等が適しており、以前から、現金収入を得るため栽培が盛んに行われていたようです。「そらまめ音頭」は、先進地京都への研修旅行の帰りに立ち寄った宝塚で受けた感動から、「村おこしに音楽を活かしたい」「そら豆をテーマに村おこしがしたい」という思いで、作詞を当時生産組合長の故黒田孝雄さん、作曲を音楽教師で元中学校長の故秋本昌栄さんが担当して生まれました。

そして、現在に至るまで東大路地区女性会に伝承されています。今年女性会の会長を務める井口充子さんは、「近年、女性会に入会する人も減少し、年々そら豆音頭の伝承も難しくなっていますが、東大路ひいては米里地区の地域おこしに繋がれば幸いです。」とのことでした。地道に前進していきたいものです。

（東大路 徳長俊一）

夏休み 坐禅体験



猛暑この上ない7月27日に地区青少年育成協議会の事業として米里小学校児童、地区在住の中学生、保護者を対象として、古郡家地区にある森福寺にて坐禅体験を開催しました。

講師に本光寺（岩美町）のご住職、森本昌和老師をお迎えし、参加した13名はお経や焼香の作法などを学びました。お話によると今の坐禅体験には外国の方々の申込みも多いようで、グローバル化には正直驚きました。そしていよいよ坐禅に挑戦。森福寺の坐禅堂は30人以上同時に体験出来るほどとても大きな坐禅堂で、中国地方でも屈指の広さを誇るとのこと。暑さもある中、大人も子どもも関係なく「無」を求め、取り組みました。短い時間ではありましたが、とても満足出来ました。

勉強に部活に仕事に日々追われている方にはぜひお勧めします。米里に住んでいて、まだ知らない米里を感じることが出来ました。大人だけのグループとかでも体験できるようなので興味がある方はぜひご体験ください。

（青少年育成協議会 会長 山田 晃裕）

10代と一緒に「よねさと未来ラボ」



8月10日（土）、誰もが地域に関わるきっかけづくりとして協議会が企画し開催しました。地域ではいろいろな会合が行われていますが、これからは若い世代や女性の皆さんを含め、いろんな意見を自由に出せる会合でなければと、そのやり方を学ぼうと、10代の中高生にも加わってもらいました。

話し合いのやり方については、とっとり県民活動活性化センターの谷さんから説明を受けた後、グループに分かれてからは補助として公立鳥取環境大学の学生5名に加わってもらい、幅広い世代の皆さんの意見を引き出してもらいました。

中学生6名、高校生3名、小中PTA役員5名、区長・町内会長ら6名の計20名（うち女性は6名）といった中で、4グループに分かれて「米里をもっとよくするには何があるといいか」をそれぞれに批判や否定をせず、模造紙に自分の意見を貼りながら、どんどん自由に提案していきました。

推しの提案は、「複合娯楽施設の誘致」、「空き家を利用した古民家カフェ」でしたが、その他にも、「米里紹介動画」制作、「デートスポット」づくり、「オリジナルスポーツ大会」、「ご当地キャラ」づくり、「サイクリングコース」づくりなど、若い世代ならではの提案も数多く出てきました。こうした機会はいろいろなどころでこれからも増やし、それを活かせる地域にしていきたいものです。

